

Clinic Introduction

Vol.46

患者様の笑顔の先にある幸せをつかむための、
お役に立てる診療を目指して

今回ご紹介する先生は、浜田市片庭町の中村医院・
副院長 中村 眞 先生です。

私(副院長)は東京慈恵会医科大学附属柏病院を平成19年3月末日に辞め、父(院長)と共に中村医院(大正11年開設)の診療に従事するため浜田市に31年ぶりに帰ってきました。現在、院長は高齢となり主に副院長の私が診療しています。私は消化器病・消化器内視鏡専門医であり、患者様の苦痛が少なくかつ10年前から飛躍的に解像度が良くなった経鼻内視鏡を用いて日々検査をしています。当院は早期胃癌の発見率が高いことが特徴です。大学病院時代は難病である炎症性腸疾患(以下IBDと略す)のクローン病、潰瘍性大腸炎が専門でしたので、主に大腸内視鏡検査や小腸造影検査をしていました。IBDの診療は特殊で生物学的製剤、免疫調節剤を使うこともしばしばあります。大学病院レベルの診療をし、広島大学病院や地域中核病院と密な連携をしています。浜田・益田・大田(県央)保健所でIBD講演をしています。浜田に帰ってきたとき、関節リウマチ治療薬はIBDとほとんど同じであるため、私は真剣にリウマチ医になろうと考えました。現在、近藤宏明先生(浜田医療センター・整形外科・関節リウマチ外来)方とスムーズな地域医療連携しながら診療しています。皮膚科疾患の重症尋常性乾癬の患者様にも生物学的製剤(TNF α 抗体)治療し、速やかに皮膚症状は改善し患者様に喜んでもらっています。

父は開業医をしていた祖父の後を継ぐため昭和39年に東京から家族と浜田に転居してきました。そのため私は小・中・高校を浜田市で生活しました。北里大学医学部を卒業後、慈恵医大附属柏病院総合内科に入局し消化器班として従事しました。新設の附属病院で医局の壁や仕切りがなくワンフロアーに全科のドクターの机があり、他科に相談にいくのも非常に自由でした。こうした経験が開業医として現在役立っていると思います。自分はIBD専門外来で約250名の診療に従事していました。IBDの患者年齢は10から30代が多く、人生のイベント(受験、進級、卒業、就職、結婚、妊娠など)前で人生のハードルを上手に越えさせるために、かれらの人生も診ていく必要性がありました。私は、医学は学問で医療はサービスと考えています。私の患者様は外来でいろいろなことを喋られます。患者様が微笑んで帰ってくれば、自分の負けだなと思っています。

開業医は大学病院時代のように専門だけでは成り立ちません。父(院長)は患者様に予防医学を熱心に指導し、毎年、「自分で守る健康12ヶ条(知識のワクチン)」ポスターを配布していました。私も予防医学と医療連携を最重視しています。(1)禁煙外来は日常診療するために必要です。日本人の死亡原因の1位~4位は全て喫煙が関係しています。(2)他の医療機関への平成28年度の紹介状数は300通以上になり、その多くは浜田医療センターです。(3)認知症機能評価をADAS-Jcogで行い、認知症がある場合は、状況に応じて放射線科に認知症画像診断依頼や神経内科や精神科を紹介しています。(4)国民病といえるスギ花粉症とダニアレルギーに対する舌下免疫療法を積極的に行っています。



現在の取り組みは慢性腰痛です。東大病院方式でマッケンジー法と簡単なストレッチを組み合わせる理学療法により多くの慢性腰痛が改善することが報告されています。毎晩寝る前に、この簡単な理学療法を継続することは薬を内服することよりはるかに難しいことです。「これは中村医院の挑戦です」と患者様に言っています。禁煙治療と同じで継続させるには「家族の応援」が必要です。

私は多くの患者様の笑顔を見てきました。中村医院スタッフ一同で、笑顔の先にある幸せをつかむためのお役に立てればと考え、日々の診療をしています。

インタビューを終えて.....

「趣味は学会、研究会に行くことと、園芸です。花は患者様を癒す大切なスタッフの一員です。」と語られた先生からは熱誠な人柄が伝わってきました。



中村医院

院長 中村 司

副院長 中村 眞

〒697-0041

島根県浜田市片庭町51-3

☎0855-22-1183 FAX0855-22-1172

診療科目/内科、胃腸・消化器内科、アレルギー科、リウマチ科
 診療時間/毎週 月~水、金...9:00~13:00、14:30~17:45 木、土...9:00~13:00
 経鼻胃内視鏡検査 月~土...8:00~
 休 診 日/第4木曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

Nursing home Introduction

Vol.3

住み慣れた地域で安心して暮らせるように

続いてご紹介する施設は、浜田市熱田町の有限会社
ホットケアセンター・代表取締役 山根 優子さんです。

○施設について

平成16年に「有限会社ホットケアセンター」を設立し、翌年に「訪問看護ステーション ほっと」、「介護屋さん ほっと」「介護プラン ほっと」を開設しました。また、ニーズが多いので、平成18年に三隅にも「訪問看護ステーション ほっと三隅」を開設しました。

当時、私は在宅サービスを続ける中、訪問看護の限界を感じていました。それは中重度の医療依存度の高い方や病状が不安定な方は通所やショートケアの利用が困難な場合が多く、ご家族の方の疲弊を招いている状況があったからです。安心して泊まれる場所を作りたいという思いから、平成25年に新社屋を建て「複合型小規模多機能 ほっとの家」を開設しました。

○事業内容について

「ほっとの家」には看護師10名、作業療法士4名、理学療法士2名（訪問看護ステーション兼務）、介護員12名と栄養士1名を配置して365日24時間体制で緊急時にも対応しています。「泊まり」「通い」「訪問介護・看護」をご家族の方とご相談の上、臨機応変にプランを組み合わせ、「健康管理」、「療養及び介護相談」、「医療的ケア」、「介護」「リハビリテーション」「看取り」等を行い重度の方でも、多職種協働で在宅療養が続けられるよう支援しています。「泊まり」の定員が9名、「通い」の定員が15名です。「ほっとの家」を開設した当時は、全国でも開設しているところが少なく、どのように運用すればよいか手探りであったため大変苦労しましたが、今では全国から研修を受け入れています。

「訪問看護ステーション ほっと」は16名の看護師と6名のリハビリスタッフで、ご利用者様は約150名です。1日に看護師1人当たり4～5件ほど訪問して、軽症な方から重症な方、または終末期の方まで幅広く看ています。月曜日～土曜日の営業ですが、ニーズが多く日曜日や正月にも24時間交代で対応しているので多くの人材が必要です。しかし、若い人が都会に出ていくことや30代の職員が多いため、子育てや出産で休みを取れる体制を確保しておかなければならず、人材確保に苦労しています。

「介護屋さんほっと」は17名のヘルパーで、ご利用者様は約80名です。365日営業で訪問介護をしています。介護保険、障害者自立支援の他、ここ数年、保険外事業が増えています。

「介護プランほっと」は4名のケアマネジャーで、ご利用者様は約120名です。特徴としては主任ケアマネが3名おり、全員基礎資格が看護師なためか、医療依存度の高い方の依頼が多いように思います。

○病院との連携強化について

地域包括ケアシステムの構築が急がれていて、各医療機関と地域の介護サービス事業所、行政等で相互学習が頻繁に行われるようになりました。浜田医療センターで開催された地域医療従事者研修会でも訪問看護のことをお話しさせていただきましたが、知識を共有



できる有意義な会となりました。浜田医療センターは地域の基幹病院であり、在宅のかかりつけ医との病診連携も随分進んでいると思います。地域連携室の働きで退院前共同カンファレンスを通して地域の介護サービスとの連携・退院支援がスムーズとなり、在宅療養支援の整備がされるようになってきたと実感しています。また浜田医療センターには多くの認定看護師さんがおられます。訪問看護師との同行訪問や研修会をととして、相互理解と連携を深めると共に、看護の質の向上ができるよう、協力関係が築けることを望んでいます。

管理者からのメッセージ

厚生労働省は在宅医療を推進していますが、在宅医療の受け皿の整備は充分とは言えません。在宅医療では軽症な方から人工呼吸器をつけた重症な方まで診ていますが、退院後に在宅でケアしていく準備をしても主治医の「在宅は難しいのではないかな」の一言で家族は施設に送ることがあります。ご本人とご家族の意向を確認し選択の支援をすることが大切です。介護事業所、ケアマネジャー、医療機関やご本人・家族の方と情報共有することで、病気や障害があっても住み慣れた地域で暮らせるように尽力したいと思います。



有限会社 ホットケアセンター

代表取締役 山根 優子

〒697-0062
島根県浜田市熱田町705-1
☎0855-25-5400(代) FAX0855-23-5401

事業所：複合型小規模多機能 ほっとの家
訪問看護ステーションほっと・サテライトほっと三隅
介護屋さんほっと・介護プランほっと